

企画展

江戸の宝くじ 富

一攫千金、庶民の夢



企画展

江戸の
宝くじの
富

― 攫千金、庶民の夢 ―

ごあいさつ

年の暮れや夏の風物詩・宝くじ。高額の当せん金を夢みて、抽せん会のテレビ中継を見守るという方もいらっしゃるでしょう。江戸時代の人々も、現代の人々と同じ夢を追い求めていました。富(富くじ)への参加です。

たくさんの富札を売り出し、抽せん会「富突き」で当たりの番号を決め、当せん金を渡すという富のシステムは、宝くじの先祖といえるものでした。

本企画展では、江戸時代後期に都市部や各地で流行した富について、当館所蔵の富突き道具・富札・錦絵・刷物などを通して、その仕組みと魅力を幅広く紹介します。一攫千金を願った人々の思いや、富から派生したさまざまな文化をお楽しみいただければ幸いです。

日本銀行金融研究所貨幣博物館



はじめに

今回展示する資料は、貨幣博物館の中核となっている銭幣館コレクションの一部です。銭幣館コレクションは、古貨幣収集家・研究者であった田中啓文氏(1884~1956)が収集した世界有数の東洋貨幣コレクションで、貨幣だけではなく貨幣にまつわるさまざまな民俗資料を含むことが大きな特徴です。

その一つが、江戸時代の「富」に関する資料群です。富は、現在の宝くじの仕組みに似た賭け事の一つで、寺社の修復や港の修築などの事業の資金調達を主な目的とし、大規模な興行として各地で行われました。

銭幣館コレクションの富に関する資料群は、その種類も地域も幅広く、わが国における富の歴史と多様さを一覧できるものとなっています。

今回は、富札をはじめ、富突きで実際に使われた道具、富突きの様子を描いた錦絵、富の開催の広告、当せん番号の掲示、当たりくじを交換する際の合言葉を集めた冊子など、富の開催と演出に不可欠であった資料を展示します。初公開の資料も数多く展示し、江戸時代の富をめぐる文化を多角的にご紹介します。



目次

2	ごあいさつ
3	はじめに
	図版
5	Part 1 富はどうおこなわれた？ —仕組みと流行—
15	Part 2 さまざまなプレイヤーと富 —その主催者・富札購入者—
31	Part 3 江戸とその周辺の富
39	Part 4 各地の富
52	日本銀行金融研究所貨幣博物館所蔵 富関係資料目録（富上り文句帳・富出番録）
55	主要参考文献

凡例

- ・本書は、日本銀行金融研究所貨幣博物館が開催する企画展「江戸の宝くじ「富」 — 一攫千金、庶民の夢 —」（会期：2018年12月1日（土）～2019年2月24日（日））の展示図録である。
- ・本書に掲載の資料は、特に注記のない限り、全て日本銀行金融研究所貨幣博物館の所蔵資料である。
- ・本書に掲載の資料は、一部展示されない資料を含んでいる。
- ・図版、資料名、作者・生没年（または作画期）、資料番号の後に解説を付した。
- ・資料名は、原則として資料に表記されている原題としたが、資料の内容に即して適宜付したものもある。